

昭和35年

畜産十大ニュース

1、県酪連で牛乳の一元集荷多元販売軌道に乗る（1月）

県下の各酪農組合単位に乳業メーカーへ出荷されていた乳牛を、県酪農で1本にまとめ各メーカーへ販売されることになった。

1、大阪市で第1回枝肉共進会開催（1月）

全国的にも初めての試みとして直接消費地に優秀肉牛を送り枝肉の共進会を行い、各方面に大きな反響を呼ぶ。

1、惣津畜産課長の転出、蔵知新課長の就任（4月）

12年にわたり県畜産行政に敏腕を振り、畜産岡山発展の基盤を築かれた惣津課長が県監査事務局長に栄転、酪農試から蔵知新課長が就任。

1、県畜産課に草地係新設とグリーンプランの策定（4月）

畜産振興の基盤となる自給飼料確保の重要性から新らしく草地係を設け、長期の草の大増産計画を樹て、これによって今後の牧野の造成、改良が進められることになった。

1、和牛試験場創立40周年（4月）

大正10年に岡山種畜場分場として千屋村に設置されて以来、和牛の指導奨励を続けてきた和牛試験場の、40周年及び施設拡充の記念式典挙行

1、凍結精液による人工授精の実用化（4月）

和牛試験場繋養の第4下前号の凍結精液によって人工授精された仔牛が、各地で次々に誕生、10月には県酪農試へ超低温装置を設置、活躍が期待されている。

1、乳牛頭数2万頭突破（4月）

4月始めに県畜産課で集計された県下の乳牛飼養頭数は2万頭に達し、昨年の牛乳生産量4万7千トンに上った。

1、和牛の生産改良基地の設定（8月）

和牛の積極的な増産改良を計るため、今年度から和牛の生産敵地を県が指定して、生産、改良指導組織、流通面などに集約的な助成、指導を加えて行くこととした。

1、アメリカより県養鶏試験場へ肉用種鶏を輸入（12月）

最近、ブロイラーの消費が急速に伸びているが産業的発展の基盤となる肉用種鶏の改良のために、アメリカから優良品種の導入を行った。

1、豚コレラの発生（12月）

年末押し迫った12月初旬、県南部地域に豚コレラが発生、まん延の徴候を示しており、全力を挙げて防疫に努めている。